

各位

三井住友海上火災保険株式会社
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

～販売好調！！ 発売から4か月で到達、後方録画機能も新たに追加～
「見守るクルマの保険（ドラレコ型）」の契約件数が10万件を突破！

MS&ADインシュアランスグループの三井住友海上火災保険株式会社（社長：原 典之）ならびにあいおいニッセイ同和損害保険株式会社（社長：金杉 恭三）は、2019年1月以降始期契約から販売を開始した「見守るクルマの保険（ドラレコ型）」※1の契約件数が、2019年5月に、10万件を突破しましたので、お知らせします。

本商品は、通信型ドライブレコーダーの活用により、事故等で衝撃を検知した場合に、当社へ自動通報し、専用デスクのオペレータがお客さまに事故の初期対応をアドバイスするサービス等を提供する自動車保険です。さらに、今般、「あおり運転」による重大事故の発生を契機に、「見守るクルマの保険（ドラレコ型）」専用リアカメラで車両後方の運転映像を録画できる機能も新たに追加します。

MS&ADインシュアランスグループは、今後も商品・サービスの提供を通じて、事故のない快適なモビリティ社会の実現に貢献していきます。

※1：商品名

三井住友海上 : 「GK 見守るクルマの保険（ドラレコ型）」

あいおいニッセイ同和損保 : 「タフ・見守るクルマの保険（ドラレコ型）」

1. 「見守るクルマの保険（ドラレコ型）」の販売状況

ドライブレコーダーに対するお客さまの関心は高く、2019年1月の発売開始から約4か月で、「見守るクルマの保険（ドラレコ型）」の契約件数が10万件を突破しました。

特に、事故に遭われたお客さま等から、録画映像や事故緊急自動通報サービスが役立つという声をいただくなど、高い評価を受けています。また、安全運転支援アラートや運転診断機能が、事故防止や安全運転の意識向上につながっています。

<迅速な事故対応に役立つ事例>

相手側と事故状況の認識が相違したケース	ケース（1）	十字路交差点内の車両同士の接触事故において、相手方は一時停止線で停止したと主張したものの、ドライブレコーダーの録画映像により、相手車両が一時停止をせずに十字路交差点に進入していることが確認され、早期解決となりました。
	ケース（2）	車両同士の交差点事故において、お客さま側、相手側ともに青信号主張となったケースで、ドライブレコーダーの録画映像により、お客さま側の青信号が確認され、早期解決となりました。
山中の事故で初期対応が困難なケース		単独事故において、雪が降る早朝の山中で周囲に人がいない状況であったものの、ドライブレコーダーの通信機能を通じて、お客さまの安否確認を実施し、迅速な初期対応とレッカー手配を行うことができました。

2. 新機能（車両後方の録画機能）の追加

昨今、「あおり運転」による重大事故の発生を契機として、車両後方の運転映像も録画したいというお客さまニーズが高まっています。こうした状況を踏まえ、三井住友海上ならびにあいおいニッセイ同和損保は、「見守るクルマの保険（ドラレコ型）」専用リアカメラ※2において、後方を録画する機能を新たに追加することとしました。

※2：専用リアカメラは、ドライブレコーダーメーカー等にて、お客さまに別途購入いただきます。



<専用リアカメラ>

以上